はじめに

10回目の学力テスト／14回・・・・・・どんな意味づけをしているか

イ）　授業の成果確認　　ロ）　不得意科目克服の契機　　ハ）　赤点取得の瀬戸際

→ＰlanーＤoーＳeeーＡction

■目的地

⑴大学入試の場合

①平成１９年１月２０日（土）・２１日（日）まで／２月２５日（日）までのイメージ
（国公立大学第２次試験への出願期間１月29日〜２月６日）

６月マーク：基礎力確認

11月オープン記述：２次力確認

②ＡＯ・推薦入試への挑戦の決意

広島大学ＡＯ入試Ⅲ型（ゼミナール（授業）への出席を課す選抜）６月申込

筑波大学の広い講義室・・・・・・一番前派／真ん中あたり派／一番後ろ派

⑵人生の場合

２年次の悩み１

「なぜ大学に行くか」ー大学に行かなければなれない職業／なれる職業ー

専門学校と大学の違い　（例）スポーツリハビリテーション，作業療法士
専門学校：既存の技術の会得
大　　学：既存の技術の会得＋未知の技術の開発

２年次の悩み２

「なぜ難度の高い大学をめざすか」

学ぶ意欲を持った仲間がいるから。

技術立国の日本のゆくえ・・・・・・〈格差〉によって富を生む資本主義の渦中
旧）ものづくりの技術→既存の技術による大量生産→低い人件費の中国に負ける
新）知的技術の革新→高度な知識・創造的技術による知的資産→活路

２年次の悩み３

「なぜ国公立大学をめざすか」

５教科６〜７科目すべての領域を学ぶことが未来の飛躍につながる。

→これから半年「数学」にこだわれるか否かが重要な分かれ道

既存の枠組みに揺さぶりをかける人間の必要ースペシャリストからゼネラリストへ
イ）既存の枠組みを継承できる人
ロ）新しい枠組みを提案できる人

■どんな学び方をするか

イ）本質を見抜く眼を養う

ｙ＝ｆ(x)　物事に潜む規則を探す

ロ）新聞や新書を読んで語彙や考え方の引き出しを増やす

（例）「NEET」（Not in Employment, Education or Training）って悪いことですか？

ハ）基礎・基本の繰り返しを厭わない（授業第一）ー授業はセンター試験に直結する

（例）傾斜配点にすぐ換算できない人＝難しいことに時間を割きすぎている人

■よく生きる〜あきらめが限界作る〜

「どんな優れたアスリートでも，能力の３割も使っていないと言われています。だから，私はスケートという手段を使って人間の能力を探ってみたい。限界というのは，その人があきらめた地点を指す言葉だと思います」（2005年３月５日付朝日新聞）

1998年の長野五輪で３位，2002年のソルトレーク五輪で６位，そして今年のトリノ五輪で４位に入賞したスピードスケート短距離の岡崎朋美の言葉だ。彼女は今年34歳。

「周りが勝手に限界説を唱えるんです。自分の精神の弱さを，他人が決めた『限界説』にすり替えて引退した選手も多いと思う。もったいない。これからが面白いのに」

「朋美スマイル」で五輪スターになった彼女がこれほどまでに成長したことに驚きを感じた。そして励ましをもらった。「あきらめが限界を作る」。

ぼくらもどこかで自分の「限界説」を捏造（ねつぞう）していないだろうか。高校２年間あるいは小学校や中学校での学習や人間関係のつまずきを自分の能力のせいだときめつけていないだろうか。同級生と言ったって精神的あるいは肉体的な発達段階は，人それぞれ違う。そもそも「同級生」という言葉自体４月１日から３月31日までを「同い年」に括（くく）った制度だ。みんなと同じはずだと思い詰めない方が身のためだ。考える楽しみに満ちたワクワクする一年間を築いてほしい!!